

医療制度改革と 海南病院のビジョン

平成26年6月

病院長 山本 直人

海南病院長と

～新たな医療制度・
地域住民に

Q 病院規模の割に精神医療分野が小さいのでは？
海南病院で対応が難しいのであれば、病院ならではの情報の提供を求める。

A 体制面の工夫や情報発信に取り組み、患者様に納得いただける医療の提供に努めます。
電子カルテの導入や2人主治医体制（地域の主治医と海南病院）の確立など工夫していきますが、一方で医療の現場では時間で区切ることが難しい面があり、そのことも説明し理解を得ていく所存です。

Q 医療制度が変化していく中、市民に十分な説明を以前は、入院したら完治まで面倒を診てくれたが、現在は、手術後すぐに退院となる。また、海南病院へ行くには地域の医院の紹介状が必要だとも聞く。予約にも関わらず2時間待ちという声を耳にする。
患者と向き合い丁寧な説明を求める。

A 受入患者数に合わせ補助金を広域な行政から受ける制度は他の地域でもないと考えています。運営補助に頼らない病院づくりをしたいとは考えていますが、運営については、厚生連本会と調整をしながら検討していきます。公的補助制度が利用できることがあれば、行政とともに取り組んでいきたいと考えています。

Q 救急救命センターとなり広域からの受け入れに対し補助金を検討しているか？

A 高度急性期を中心に医療提供を行っている現在、入院精神診療の整備は考えておりません。精神科医2名体制で、外来診療は十分に提供可能です。海部圏域内外各医療機関、大学では名古屋市立大学とも連携しており、入院のための紹介も可能な体制をとっています。

Q 現在、施設整備中であるが、車での送迎に配慮した計画がなされているか？

A 現在、現有地での施設整備中であり、利用者には大変ご迷惑をおかけしています。今後、スムーズに運用が可能な正面玄関前のロータリーや、お迎え用待機スペースの整備など、改善を考えています。



▲意見交換会(市民ホール)

終わりに
最後に市長から『市民の皆様は海南病院を頼りにしている』の言葉に山本院長は、『海南病院は、地域にしっかりと根つき、この地域を守っていききたい』と考えを述べられ意見交換会を閉じました。